



世界の紛争 キーワードで読みとく

「月刊みんぱく」編集部＝編
河出書房新社
定価：1,600円＋税

政府は昨年、ODA(政府開発援助)を紛争解決の手段に活用する方針を決めた。今や紛争問題はODAに限らず、国際協力の主要テーマになっている。

そうしたとき、国際協力の仕事に携わる人たちにとって興味深いだけでなく、分かりやすく、すぐ役に立つ便利な本が出た。「月刊みんぱく」編集部・編の本書である。

『月刊みんぱく』というのは、国立民族学博物館(略称:民博)の広報誌で、その編集長は民博の研究者たちが2年交代で当たっている。昨年までその編集長だった小長谷有紀助教授が、本書の企画から編集

までを陣頭指揮した。

100問100答で構成されているが、その質問はいずれも考え抜かれたものばかりだ。そのあたりについて小長谷さんは、「読者に代わって質問を設定する作業から始まった」と記しているが、数名の研究者が集まりブレインストーミングを重ね、「できるだけ素朴な、だからこそ本質的であり得る100問を用意した」(小長谷・前編集長)という。

100問に答えているのは55人の民族学・文化人類学の研究者たちだが、その人選もブレインストーミングの参加者たちであ

る。要するに現場を自らの足で歩き、その人びとの声を聞くことを仕事にしているフィールドワーカーたちによってつくられたのが本書なのである。

この本で興味深いのは、世界各地で起きている諸問題の根幹は、人が人に対して感じる偏見や差別など人間的な問題であるとしていることである。

第1部:宗教をめぐる問題一ヒト、それは信条をためす生き物なのか、第2部:民族のあいだの抗争一ヒト、それは出自をきそう生き物なのか、第3部:国境をはさむ対立一ヒト、それは空間をとりあう生き物なのか、第4部:制度のひきおこす葛藤一ヒト、それは掟をつくる生き物なのか、第5部:歴史にきざまれた反目一ヒト、それは過去をかたりつぐ生き物なのか、第6部:開発にひそむ矛盾一ヒト、それは進歩をうたがわぬ生き物なのか。

以上、6つのキーワードに、現在、世界各地で起きている紛争の読み解きを試みている。